

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きららkids奈良		
○保護者評価実施期間	2024年12月15日		～ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41人	(回答者数) 34人
○従業者評価実施期間	2024年12月15日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月8日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・物理的な空間や活動の流れを明確に構造化し、利用者が「どこで何をするのか」を理解できるようにしています。さらに、視覚支援を活用することで、見通しを持って行動し安心して過ごせる環境を整えています。	・視覚支援を用いたアプローチを意識的かつ積極的に取り入れており、利用者が情報を理解しやすく、安心して活動に参加できる環境を整えています。	・より効率的で効果的な支援ができるようにPDCAサイクルの見直しや、強化を測ります。
2	・心理による専門的アプローチやアセスメントを行い、ABAや認知鼓動療法など利用者の特性や性格に応じて支援しています。	・プログラムが固定化したり偏りが生まれたりしないよう、「5領域」(身体・社会性・言語・認知・生活習慣)を意識した内容で設定しています。	・地域交流を意識した取り組みや活動をさらに充実させることを検討しています。
3	・おもちゃやアナログゲームの種類が充実しているので、利用者の発達段階や特性に併せて遊びながらトレーニングができます。	・多様な家庭環境や個々のニーズに応じて、柔軟な対応を心がけています。	・作業療法士による専門的なプログラムを取り入れるとともに、運動面の機能向上を目指したプログラムの充実を図ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・外部講師の指導やスーパーバイズを受ける機会が十分でない。	・地域のイベントや外部講師による研修の機会など、外部からの情報を積極的に収集することに意識を向ける必要があります。	・地域のイベントや研修情報を定期的に収集・共有する仕組みを作ったり、インターネットや地域の広報誌、自治体のHPなどを活用し、情報収集のルートを多様化します。
2	・構造化された空間ではあるものの、活動によっては十分な広さを確保できない場合もあります。そのため、活動内容に応じてスペースを適切に確保できるよう、環境の整備を進める必要があります。	・業務や支援の時間配分を見直し、より充実した活動やニーズに応じた対応に取り組めるよう、工夫する必要があります。	・業務内容を洗い出し、優先順位をつけて効率的な時間配分を行うほか、スケジュール管理ツールやタイマーを活用し、業務の可視化と効率化を図ります。
3	・地域連携の強化を図る取り組みや活動を検討する必要があります。	・地域住民や他機関との接点が少なく、地域住民などの認知度が低いため、自然な交流が生まれにくい状況があります。	・地域住民を招いた説明会や懇談会を開催し、事業所の役割や活動内容を直接伝える機会を検討する。